

LEONTODO

N-ro 28

(1963. Mar.)

**HEL**

★参加人数は 総員28名 内女性15名
地方別に人数をのべておく 次通り

北海道連盟初の DISCIPLINADO 開く

——— ウトナイ湖コースホテルにて ———

昨年の26回北海道Esp大会で Disciplinado por parolkapablo en Hokkaido が提案され、宿題として残されていたのは御承知の通り。宿題を貰われ J.O 関係の Junuloj が各地方会連絡しあって「セツはどうだ、登別は一と考へたあげく、位置的にも道東ベルトの中央に位する ウトナイ湖畔に丁度好都合の場所がとれたので」次のように決定

ところ 苫小牧市植苗 市営ウトナイ湖コースホテル

とき 1962年12月30日～1963年1月3日

最初の計画は LEONTODO 前号の予告のように多くの veteranoj による講話ということだったが、やはり年々とくに動きにくくなったか veteranoj とよばれる方は3名しか現われず、又総指揮官たるべき高橋運治事務局長が研修航海との由で pro laboro とはいいながらインドのゴアへ向けて出国、「後はよろしく……」との事で結局地元の苫小牧で全部準備、進行……という事になった。

★ Programo は大体次の通り Kantado, Diktado, Parolado, Demando-kaj-respondo 等を適当に入れて何とか予定を埋める事ができた。

	30日	31日	1日	2日	3日
9.00 各人発表	/	各人発表 SIN PREZENTO PAROLADO DE 5-10 本村	各人発表 SIN PREZENTO Interjekcioj 10分 DIKTADO (2回)	各人発表 SIN PREZENTO PAROLADO DE 5-10 本村	各人発表 Esp 団体について J.E. JOI について DIKTADO
12.00		T A	G M A N	G O	?
13.00	MALFERHA LEREMONIO SIN PREZENTO	PAROLADO DE 5-10 本村 privilegia vojo による学習	privilegia vojo による学習	DIKTADO (2回) privilegia vojo による学習	Adiaŭkunsido
17.00					

★参加人員は 総員28名 内女子15名、
地方別に氏名をあげれば 次の通り

小樽工学会 6名 { 佐藤不二雄、 遠谷宏、 高橋悦子、 喜田紀子
河村元江、 新谷幸子

札幌工学会 7名 { 由良悦子 木林喜正、 = 侯季代美、 永田明子
永田伸夫 篠正子、 金子宏泰、

苫小牧工学会 7名 { 大沢篤子 影浦英明、 星田淳、 北島瞳
茂庭泰子 北島干寿、 越野文子

室蘭工学会 4名 平田岩雄、 浜田国貞、 山田つゆ、 村不昭徳

函館 — 吉田 崇、 穂別 — 塩谷登、 由仁 — 林 翠子

★夏別 — 辰巳 清美、

★ KANTARO

Prononca ekzerco としても又 qajigo。奥からキ Kanto 効果がある、
の ekzerco を使用した。

というわけで こんな時全員が同じ Kantaro を持っている都合がよい。今度の
場合 いくつかの曲を印刷しておいた。毎日歌は Disciplinaco のテーマ音楽

(japeno) みたいになつたのが Huanta tajdo, KLEF の Kantaro "Floras,

flamas. en skarlat" を多くの人から受けてきたので その中からよく歌った

"Ĉu kobizidoj ĉu karasidoj", "Himno al Neĝmonto" 等。又いくつか

名 kunsido で歌つて いた

★ 各人発表 — Demandoj-kaj-Respondoj

2) Anonco の通りの各人1名以上の発表、毎日予定通り行った。準備してなかった

人、初めの言葉が出ない人……。Temo が「見あたられば」SINPREZENTOで

2.7 等が笑ひ SU, KU で 2c-5, k' とあひまひ 等

えい — とした。 SIMPREZENTO を毎日くりかえす人も多い。しかし
 先んじて konatiĝo には習ったらしい。本人の語が出てなければ demandu
 bonvole, とやり、 Ĉu vi havas nomon? などへの質問がとんで一層爆笑。
 loĝejo, laboro ... 等々いろいろある。 Ĉu vi havas karulon? と
 F-ino に好んでまく s-ro M に対して "Mi rifuzas respondi!" の
 断言たる答がでてくる事があった。 Privateco の問題か。自分で語と母音
 次々と質問が飛んで答えがばならなくなる。初めの人には一寸、目のまわりの思ひだ
 っだろう。

★ DIKTADO

後になって diktado をやり出した。話すのはいいが発音のききとり、理解
 の正確さは、やはりこれに一番にあらわれるようである。教材は Zamenhof
 の Ekzercaro を使用した。

やってみると案の定、かなりの誤りが発見された。回を重ねる毎に だんだん
 少くなり、終り頃には満足が 3、4人 あられるようになった。主要誤りは
 次の通り

- 1) |, r の誤り、これは自分自身の発音が目頃から正確を区別をしてい
 ないからである。次のように発音の比較練習が必要だ。

diri — diligente, ribelo — libero, regi — legi
 aperas — ~~popelas~~, fero — felo, farto — falto

- 2) 子音連続の間に母音を入れた誤り、例えば skvripi, pataro,
 kajlara 等。これには自分の発音の不正確はあるが、日本語の
 ス、フ等が実は su, ku である -s, -k とおなじ母音を

伴う不完全な音で S, k, に近い事もあげられる。使つて日の発音は Esp の
場合注意すべきで、次のように発音比較練習が必需となる。発音がかたあつた。

Jes, sfero — sufero, kero — kulero, skerco — sukero, 10

よかつたが、よく知られていなくて、まじつた人があるらしい。ここは 6-7A

★ FIUANTA AKVO

この ~~建~~ ホステルは 2 年前に建てられた、なかなかきれいな建物。
leciono の周りに多く Tuta kunvivado を sur-esp-0 にしてつめていく勢

男、世用殊室各 1 と休養室 (lerno ĉambro) を使つるとあつて申し分ない……

と思つていたら、オ 1P 30P 位の風雨で、忍び弱臭はくろ。庭からの風雨が

広いガラス窓にあたり、吹きこんでくるのである。leciono の最中足が下が

冷たくなる。Ni kantas "Fluanta Tajdo", dume, sur la planko

akvo ----.

★ DISCIPLINADO DANCAJ KAJ GLITAS

勇拂原野の夜中に原始の遊戯のこすウトイ遊は春から春にかけてステ+

場として又白鳥飛来地として知られてきた。白鳥は未だ時期が早く、氷が
上々、早朝や昼休に有志 (qe-oj) 数人 元氣一杯、凍てつく氷上をどどま

わつていた。又夕食後と暮れば halo のステレオプレーブを修理して持参
のレコードをかけフォーダンス、tertuloj も多く、大いに愉快にマイム

マイム、オ 3 の男、オクラホマ ミキキ …… さては SOCIA の外に移つて

マンボ、ジルバ迄、大いに amikiĝo の実をあげた。

★ 総括の仲間入りも致ししたが、内心「お岩様」で終る

のではある。北海道では初めての Disciplinado たつたが、かぎりの参加者

あり lernado と amikiĝo に成果をあげたことは一応成功たつたと

いえる。 欲をいえば、全員、全期間いてもらって、クラス分けしやれば……とか
つたが、一度にはむりだろう。又このような確しをやりたいとの希望がかたあつた。
Jes, もっと多くの novuloj の参加を得てたびたび確したい。場所は位置的には
よかつたが、よく知られていなくてまごついた人があつたらしい。ここは6-9月
の観覧シーズンにはこむか、其の他はわりにおいておき使えとの事。猶今後
leciono の商をサでなく Tuta kunvivado を nur-esp-e にとつていく努力
が必要と思う。

お話しが通じませんでした。 (墨田 記)

イスペラント強化合宿に参加して

由仁 林 里菜子

甚小牧の Esp 会の方からコースホステルでの強化合宿に是非参加する様にさそわれ
まして、2日、3日の最終日と参加することにしました。

Esperanto には少なからず関心を持っていましたが、今度、強化合宿の参加
には少しむりの様に思ひ躊躇致しておりましたが、~~今度~~これを Esp-o
を勉強するよき機会と思ひ心臓強く参加致しました。

甚小牧よりバスで20分 ウナイ湖に浮かぶ白鳥の群を想像したり、雪ぐ
まの勇払原野を窓越しに眺めつつうち、キャンプ場入口に着きました。
そこより徒歩、みち分程でコースホステルです。

さつそく講習中の室に案内され、会の一員として自己紹介をしまし
て私も講習中の仲間入りを致しましたが、内心「お答様」で終る
のではないかと慶うつを氣持でいたしました(一言で会話はできま
んのぞ)。案内する事となくすぐその雰囲気にとけこむ事ができました。

、という事は Esp会の人々は初対面の人に対しましては何十年某の知己のよ
うに 暖い 近親感を感じさせ、又人間的に何か心の通じ合うものを持って 自然に
強く与える為めではないでしょうか。これは大きく全人類に通じ合い、そして世
界の平和と友愛につながる事を願わずには いられません

講習中はそちらの事、すべて会話は Esp-0 で行われる為めに 皆、つまみで
表情豊かに、楽しそうにお話をするのにくらべまして 私は通訳つきでなければ
お話しが通じませんでした。数時間後には一言一言と少しずつ 単語を知る
事が出来、結局 強化合宿に参加した事により 初心者の方も「もつと頑張ろう」
とよい 刺激を受け、又人間的にお互に理解し合う為にも 大変意義のある
合宿であつたと思ひました。そして この種な集会を気軽に度々重ねる事によ
り Esp-0 もますます強化される事と思ひます。

夕食後はそれぞれ自由にレコードを聞いたり、会話の練習、ダンスに
興じたりして 若人達の楽しい夜の一晩を過ごし又 あすへの Esp-0 の訓練
を楽しみに 旅期間しながら、一日は無事に過ぎました。

★

NOVZELANDO の WISE 氏夫妻を迎えます。

S-ro Frank Wise (73才)

2. Salisbury Rd
Gisborne, New Zealand

D-ino S-ino Wise 夫妻は 4月5日 大阪空港着、日本各地
を廻つて 5月19日 函館着、その後1週間 道内観光、各地の
samideanoj の案内を希望、5月26日 千歳空港発。詳しいスケジュール
はその頃に改めて作つてお願いしますが 皆さんの御協力を待ちます、

夫妻はたびたび欧米を旅行し 自作のスライドとテープ 持ち、内容

第50回世界エスペラント大会 北海道後援会について

来る 1954⁶⁵年夏 東京で開催される第50回世界エスペラント記念大会には 北海道にある私共エスペラントも進んでこれに参加するため 学習はもとより、今が夫々、参加費の貯金も始めて下さるお すすめ致しますが、又すでに R.O 誌上でも御承知のように各地方ではすでに後援会を作り、募金も始めています。

私共もここに北海道後援会を作り、皆さんの積極的参加を得たいと願います。一部の方はすでに R.O 誌上でもご覧のように寄付金を直接送付した方もあるが、今後はなるべく北海道後援会でまとめて送りたいと思います。

同封の規約をお読みの上、当郵便口座を利用して何回に分けてもよいから 昭和39年12月までに一定額をお払いこみ下さい。

連合会への送金は 昭和38年6月、12月 昭和39年6月、12月にまとめて送る予定。道内の募金目標額は 50万円です!!

すでに寄付申込者は

山内 豊	100,000 円	(毎月 5000 円)
江口 音吉	10,000	(毎月 500 円)
高橋 達治	6,000	(毎月 300 円)
早川 昇	5,000	(1 時払)

KION LEGU?

— HISTORIO de la LINGVO ESPERANTO

(E. PRIVAT)

著小牧

星田 譯

事實は小説よりも奇とかいう。その程でなくても fikcio である。歴史の流氷感
知れば知る程 我々に多くの深い教訓を与えてくれる。この本もその変化に面白い。

今更 Historio ... どの世かろうといわれるかもしれない。何しろ出版され
てから 35 年たった "古本" である。しかし 遠故知新 (ふるきとたづねて
あたらしきをしる) は、常に真理である。

「Esp 始めた 十三年 ... ヨイロヨ」との KLEGG の Esp 五万ぶしで
なにか 私 Esp 歴 10 年になりながら、何を讀んだらなると、さうはり ...
HO, ve nenion ... なんとまさか いままでおさまらなうれをいへつた。

それと 外の教冊と共に読み出したが 特に興味もなく、読みあそび
のが かねである。外のは一寸後まわしに 会社へも持っていき 昼休
に何ページかずつ 讀んでいる。

文の程度は "Karlo" (ニヤと 同し PRIVAT 著) と比べ、その程
むづかしくなっている。しかし 初級読本あたりから すぐとびつくと 1 ページに
10~20 位の 新 vortoj があらわれるから 一寸手ごわいかもしれない。

しかしこの PRIVAT、惜しくも昨夏亡くなったが 長い Esp 運
動員ともつ人だけに、文に実感があり 割とやさしい文体で 高度の
内容を書きあらわしている。

まづ初めに コトバ そのものの 歴史的展望に立って Esp とヨーロッパ諸語
の立つ共通地盤、インドヨーロッパ語の 歴史的説明から始まる。「ヨーロッパ諸語

の肉には 大きな差異があつて、それが国際語 에스ペラント を必要とするのだが、同時に各々は著しい類似点をもつていて、それが 에스ペラント の基礎をつくり、又その成長する語いの源泉となつてゐる……」 という冒頭の文は まさに一言にして その核心をついてゐる。

Deveno de Esp は Zamenhof の Legolibro にあると同じもの、これだけでも興味深いが、ほんとうの面白さはあとと後の方にある。フランス時代の立役者 L. de Beaufront の活躍、その問題点、Ido の分裂にいたる動き、更に Komercio, scienco, edukado 等々における応用の成果の Konferencoj 等は 現在の Esp 運動にも多くの sugestio をよせてくれる。

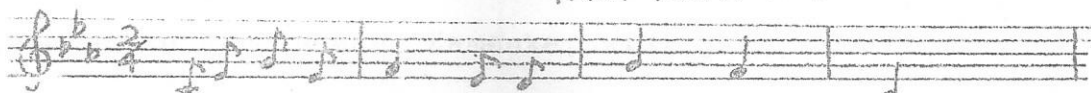
PRIVAT の魅力はなんといつても、その流れるような文体と その中に流れる強い理想主義的情熱である。彼の VIVO DE ZAMENHOF で同一様であるが、彼の文体が長く esp-isto のモハンとされたのようにつける。又彼自ら長く Esp 運動の中に身をおいれた人だから 多くの貴重な体験を直接語つて いると同時に 彼の至親が その中におりこまれてきて いることはやむを得ない。この HISTORIO は 1927 年迄である、それ以後がないのがこのたりないが、彼の書ける Historio de Esp はこの迄をたかましかる。学校友だち たつた UEA の創立者 Hector Hodler とおとついでに UEA 会長となり、Esp 運動の指導にあつたが SAT の分裂があり、更に Teo Jung や Akademio と衝突、「独裁的傾向」を攻撃されて、UEA 会長を退いたのが 1928 年 アンターワープ大会の時であった。

運動指導者としては、このように失敗したとはいへ、とにかく Esp 運動史上の一時期を画する人物であり、よくいまれた才能を Paro lanto

であり、verkisto であつた 彼が、その 最盛期の 情熱をこめて 書き上げた
この 作品は 長く Esp-isto 必読の 書として、VIVO DE ZAMENHOF と並んで
高く 評価される だろう。

Apud-Moskva Vespero

Trad. Koniŝi Gaku



1. Mu-tas nun la park', mu-tas la ar - bar'

2. Flu-tro de ri-ver' flu-as kun su - sur'



dor-mas ĝis ma-ten' ti-e ĉi Ho. ĉu
Sub la he-la lun' de ar-ĝent' kan - to



sci-as vi ka-ras sen kom-par' a-pud
en tran-kvil' ŝve-bas tra ne-bul' dum la



mas - kva ves - per' por mi? mi?
ter' - son - ĝas en si - lent'. tent' —

3. Kiom vidas vi, kara junulin'
kun klinita kap' kiel flor'?

Ne kuraĝas mi alparoli vin
pri l' sekreto en mia kor'.

4. Sed alvenas tuj baldaŭ la maten',
kore petas mi do al vi
ne forgesu plu pri l' somero en
apud Moskva vesper' kun mi

Mi serĉas korespondantinojn kun s-ro H. Rusak, Jeruzalemo
(イサハのH. Rusak氏と交通雑誌の女性を求む)

D-ro Isamu Yamaga

Ian tagon en Decembro de la lasta jaro mi ricevis
petleteron de s-ro Umeda, Kameoka, kiel jene:

Atestimata Samideano:

Hodiaŭ ni ricevis leteron el Izraelo, kiu deziras
trovi malnovan korespondantinojn en Sapporo. Ĉar ni ne
scias el kiu nin turnu por esplori la aferon, ni petas
vian bonvolan helpon.

Lia letro tekstas jene:

"Antaŭ la eksplodo de la milito (mi logis tiam en
Antverpeno, Belgujo) mi estis en korespond-kontakto kun
esperantistino en via lando. Kun la eksplodo de la milito
nia korespondado ĉesis. Dum la milito mi perdis mian
tutan familion kaj miajn tutajn memoraĵojn, restis
el mi nur kelkaj fotografiaĵoj, inter aliaj estas la
fotografiaĵo de ŝi.

"Ŝia adreso: Mitsue Tanaka

Sapporo, Nishi 24? Kita 5

"Bedaŭrinde tiun adreson mi skribas nur laŭ la
memoro kaj tre povas esti ke mi eraras (pasis ja de
tiam 23 jaroj) en io ajn. Se vi, au iu alia, bonvolos

VOJAGO DE DORIS MANORCESTR AL LA BREA INSULO DE HOKKAIDO

helpi min ie ajn maniero retrovi sian hodieuan

Sept. 12-a. Porvetaris de Kioto la 8.45 al Aomori. adresone, mi estos al vi tre dankema.

gis Aomori estis nova regiono kiam antaŭe mi havis vi bonvolos demandi al iuj malnovaj samideanoj

Naro. Post 9.15 horoj mi elvenis de Aomori kie mi pri tiu samideanino? Kaj se ni povus ne ĝeni vin.

La maro estis trankvila kaj mi pasigis 30 horojn bonvole afable sciigi al la Izraela samideano pri

14-a. Je la 4.30 a.m. mi alisipigis S-ro ticiŝni petas. Jen estas lia adreso:

vetaro. Ekspres-trajno vetaris al Otaru. De Higasi-Otaru S-ro H. Rusak

-o. De Otaru Stacio kelkaj komotoanoj kaj Esperantistoj r Zamenhofa strato 12

-e al Hokkai Hotelo. kie kelkaj samideanoj regalis min per Jeruzalemo, Izraelo

Post la luno ni pramanadis kaj pasigis 11.00 a.m. o. Kun antaŭdanko por via komplezemo, ni salutas vin.

presigis artikolojn en la lokaj ĵurnaloj, pri kaj eranto. D-ro Jamega Sincere via,

min tre kare por la tria fojo J. Umeda

kaj Sapporo dum miaj du antaŭaj vizitoj Otaru 1958). Vespere la Otaru-klubo

Cesstia de 20 samideanoj La hekskolo de OOMOTO Kameoka, Kioto-hu

ĵanaĵoj enmetitaj du respokuponoj estis kovaj

15-a. Kune kun s-ro f-inon. (eble s-inon) el Sapporo

de fiskaptistoj. Estis ĉiuj vizitis la domon militare Tanaka au la tagjurnalo au pere de malnovaj

ludi sed pro la pluvo ili devis resti en la domo. Csamideanoj en Sapporo.

kaj miaj diversaj vojaĝoj. 30 studentoj. En la sekvanta okazis arveno de re-geinstraisto

-j. Ili invitis min kaj kelkajn samideanojn korespondu kun s-ro H. Rusak, anstataŭ la malnova

treege interesigis pri Esperanto kaj estis ksamideanino M. Tanaka. kiu antaŭ 23 jaroj havis

Otaru autobusoj. Vespere s-ro Tacaŝi Takahasi aranĝ kontakton kun li.

Uatanabe, kampionano de "pingpono" au tabloteniso, el sinjoro kiu laboras en N.H.K. Radio. 103 personoj

partprenis. Dum la festo en Hokkai-Hotelo mi estis petate kenti, tial mi kantis "Tagigo" kaj "Esperanto

estas la lingvo por ni".

VOJAGO DE DORIS M. WORCESTER AL LA BELA INSULO DE
HOKKAIDO

Sept. 12-a. Forveturis de Kioto je 8.45 al Aomori .
Longa sed tre interese trajna veturo. De Kanazava g
gis Aomori estis nova regiono, kiu antaŭe mi ne
havis okazon vidi. Ni veturis laŭborde de la Japana
Maro. Post ĉ. 15 horoj mi alvenis ĉe Aomori, kie mi
iris rekte al la ŝipo por trans-mar-iri al Hakodate.

La maro estis trankvila kaj mi pasigis 4.30 horojn
en dolca dormo.

13-a. Je la 4.30 a.t.m. mi elŝipigis. S-ro
Josida renkontis min, salutis kaj adiaŭis gis reven-
veturo. Ekspres-trajno veturis al Otaru. Ĉe Higasi-
Otaru s-ro Hajakava de Otaru renkontis min en la trajn
-o. Ĉe Otaru Stacio kelkaj Oomotoanoj kaj Esperantist
-oj renkontis min, kaj post salutoj, mi estis gvidita
-a al Hokkai Hotelo, kie kelkaj samideanoj regalis
min per luno. Mi alvenis ĉe Otaru 11.00 a.t.m.

Post la luno ni promenadis kaj vizitis du ĵurnalej-
ojn por intervuo. Ili tre gentile akceptis min kaj
presigis artikolojn en la lokaj ĵurnaloj, pri Esp-
eranto. D-ro Jamaga, deligito de U.E.A. bonvenigis
min tre kore por la tria fojo (mi jam vizitis Otaru
kaj Sapporo dum miaj du antaŭaj vizitoj en 1955 kaj
1958). Vespere la Otaru-klubanoj bonvenigis min.

Ĉeestis ĉ. 20 samideanoj; inter ili estis novaj
ĵanaj membroj, kie mi rakontis s-ro Kono.

15-a. Kun s-ro Hajakava mi iris ŝipe
al Sakura por vidi akvarion, kaj vizitis la domon
de fiŝkaptistoj. Estis plua tago, kaj pro tio
multaj studentoj grupigis. Ili venis por sport-
ludi sed pro la pluvo ili devis resti en la domo.
Ĉi tio donis al mi la okazon paroli al ili pri Esp.
kaj miaj diversaj vojagoj. Ĉ. 30 studentoj.

En la supra cambro okazis kunveno de eks-geinstruisto
-j. Ili invitis min fari ~~partopreni~~ partopreni
ilian kunsidon, kaj min petis fari paroladon. Ili
treege interesigis pri Esperanto, kaj konsentis
ke ĝi estu instruata en la lernejoj. Ni renenis al
Otaru autobuse. Vespere s-ro Takuji Takahasi aranĝ-
is ke mi partiprenu en edziniĝ-festo de f-ino
Uatanabe, kampiono de "pingpono" au tabloteniso,
al sinjoro kiu laboras en N.H.K. Radio. 103 personoj
partprenis. Dum la festo en Hokkai-Hotelo mi estis
petata kanti, tial mi kantis "Tagigo" kaj "Esperanto
estas la lingvo por ni".

16a. S-roj Takahasi kaj Goto gvidis min al Sappo-ro autobuse laŭ la marbordo. Mi lancis kun 10 sami-deancoj, kaj poste f-ino Nagata, f-ino Ura kaj aliaj kondukis min al proksima parko, sidis sur la herbejo, interparoladis, kantis ktn. en la bela varma suno. Kelkaj aliaj grupigis ĉirkaŭe kaj faris enketojn pri nia lingvo. Poste ni eniris trinkejon por refreŝigi. Finfine la du fraŭlinoj gvidis min taksie al la hejmo de s-ro Josihara, kie mi noktigis en tre komforta, moderna ĉambro.

17-a. Matene s-ro Josihara gvidis min autobuse al Otaru, kie mi renkontis s-ron Takahasi. Post lanco ni iris automobile al Marista Lernejo, kie mi parolis al 60 studentoj pri miaj vojaĝoj per Esperanto. Mi vizitis la hejmon de s-ro Takahasi, kie mi renkontis lian edzinon kaj du filinetojn. La edzino povas paroli Esperanton kaj la du ĉarmaj filinetoj ~~ankxe~~ kantis Esperantan kantojn. Mi restis en la hejmo dum kelkaj horoj, kaj atendis fraŭlinon ~~m~~, kiu kondukis min al la hejmo de Oomoto-centro ---s-ro Ootaki---ĉefe de la Oomoto-centro ĉi tie. Kelkaj Oomotoanoj kaj Esperantistoj venis kaj s-ro Eguĉi kaj lia filino helpas en la traduko de mia parolado. Mi noktigis en la hejmo de s-ro Ootaki.

18-a. De Otaru mi veturis kune kun s-ro Hajakaua al Takikaua kaj Jamabe kaj uris al la Oomoto-centro, kie mi renkontis s-ron Konno, Sibata kaj aliajn. La parolado estis ĉefe pri Flugantaj Diskoj. S-ro Sadagasaki jam legis libron pri tiu temo verkita de prof. Nimija. Tre interesa vespero. Ĉi tie mi noktigas.

19-a. Kelkaj venis al la stacio por adiaŭi min kaj kun s-ro ~~Ŝitŝu~~ hajakaua kaj juna Esperantisto s-ro Sato, ni veturis al Furano, kie ni vizitis la laborejon de s-ro Sato (tejloro). Poste ni veturis al Asahikaua, kie ni renkontis Aino-grupon, vidis la dancojn kaj aŭdis pri la kutimoj de la ainoj. La ĉefe de la aino tribo s-ro Kaneto-ainu. De Asahigaua ni veturis al Socunkjo-valo, kie ni noktigis en la Socunkaku-Hotelo.

Mia heroo popolo

La kompanjo Koo Lang

(daŭrigota)

Djen Bjen Fu Rokonto

Esp-libroj eldonitaj en Vjetnamio

苦小牧 星田 淳

ここ数年來、Vjetnamio での Esp 本の発行が極めて盛になっている。

ハノイに本拠をおく V. P. E. A (Vjetnama Pacdeŝenda Esp.

Asocio)、市内の百余名の Esp-istoj と協力して Fremdlingva

Eldonejo から次々と発行しているが、なかなか立派な文のしつこくなく

な samideanoj の多いことがしのはれる。かつて中国時代の Regno の

植民地支配と斗い、近代にはフランスの植民地となり 二次大戦後 しばらく独立の

たの斗つた後 Djen-Bjen-Fu の勝利により 北半がようやく独立という 歴史を

むく国民。そして 今なお南部では激しい独立への斗いが つつしている。

こういう状態を反映して 出版本の多くは反植民地争いに因つたもので 歴史的に

文学的に興味がある。1963年度の出版計画と注文募集について次の

通り たいりか来たているので 注文して下さい。猶今迄出版されたものうち、次の

ものが 苦小牧市王子北星齋 星田淳方に在庫がある。希望者には 無料

でおわけするから 送料だけ送っていただければ 送ります。日付書あれば

お渡しします。

Vjetnamio antaŭen marŝas N-ro 1~6 de 1962 隔月刊 B5判
p.32 上紙 字大

Memoraĵoj pri Ho Chi Minh

Nia heroo popolo

La kompanjo kao Lang

Djen Bjen Fu Rakonto

Retenu ilian kriman manon!

La Phu-Loi masbuçado en Sudvjetnamio

ベトナムはかつてインドシナとか佛印とかいわれ 守國の南につづく。日本にも縁の近いアジア民族である。写真でみても 顔は日本人そっくり、十支や八旧正月行事やらもある。新聞紙上には出るベトナムは 独立国であるにもかかわらず 南北二分され、南ではアメリカ軍が政府軍を助けてベトコンという 匪賊を討伐している …… という 一方的ニュース が たらたら 出るだけ であり、その背景 真相は 殆んど 知らされていない。アメリカ軍の近代兵器による 攻撃にかかわらず、なぜ「ベトコン」が 益々 勢力を ますのか、なぜ 農民の 90% までが「ベトコン」を 支持しているのか …… 商業新聞の 報道 だけでは 知りえない。この 面について これらの 本は 巻いて くれる。(若くは ベトコン というのは 南ベトナムの 反政府ゲリラ、反政府勢力、南ベトナム解放国民戦線 1961年4月 発足 - 5月 まで から げにして アメリカ側から 右づけたもので、Komunisto だけではない)

南ベトナム問題の 概論 としては Retenu ilian kriman manon! が 適当。実に 具体的な 年月日 つきの 事例の 右かに 実情を まざままとうきほりにして くれる。1954年 Geneva konferenco での 南北分割 以前の レヂスタン スに ついては 長篇 - Franjo Tu Hai は 佳作である。今 私の 手元には 全部はないが、しみじみ心に 訴えるものがある。又 南ベトナムの koncentrejo (強制収容所) の 実態 については surtera infero。そこで 起つた 千名以上 毒殺事件は 国連迄 持ち出されたが、La Phu-Loi masbuçado …… に かわしい。

Esp は たゞ コトバとして 学ば のみでなく、それにより muroj inter

popoloj F 75 202 72 Komprenigo kaj fratigo F 75 202 72

— Ĉi tiu estas Zamenhof, la kreado de Esperanto. Ĝi estas en Europa kaj de
— ĉi tiu estas Zamenhof, la kreado de Esperanto. Ĝi estas en Europa kaj de
— ĉi tiu estas Zamenhof, la kreado de Esperanto. Ĝi estas en Europa kaj de

(E. SENELIREJO)

(Romano de Nguyen Kong Hoan)

"SENELIREJO" -- eldonita en 1938 en Hanojo, dum la malluma periodo de feuda kaj koloniisma superregado. -- estas ĉi tiu granda verko de la fama verkisto Nguyen Kong Hoan. Grandvalora pro sia realismo, "SENELIREJO" sukcesas, per sia satira stilo, denuncii la tipajn manovrojn de subpremado kaj ekskludado, fare de la koloniistoj kaj de ties lakeoj kontraŭ la honestaj kamparanoj. La aŭtoro majstre pentras la postgigantajn de pluraj milionoj da vjetnamaj trerkulturistoj, pelitaj al vere senelira situacio...

Tralejginte tiun romanon, oni klare vidas la vjetnan ke la n vjetnamaj kamparanoj havis nenian alian elirejon. krom tia vojo al lukto kontraŭ la reganta imperiismo por rekonkeri sian sendependan kaj sian liberecon.

Formato 13x19
280 paja
Prezo: US\$0.72

LA AVENTUROJ DE ZE MEN (de To Hoai)

En tiu fantazia rakonto, To Hoai pentras la aventuron de idealon soifanta grilo, kiu ciam revas vivon de paca laboro kaj sanigaj pliaj. Sed, la verko celas ankaŭ ridindigi tiajn malvirtojn, kiaj estas kruekeco, mallaboramo, alloga tute konvenas al la infanoj. "LA AVENTUROJ DE ZE MEN" de la fama verkisto To Hoai estas tradukta en plurajn fremdlingvojn kaj eldonita en pluraj landoj.

Formato 13x19
120 paja
Prezo: US\$ 0.31

ELEKTITAJ PORMOJ

(de To Han)

To Han estas la plej fama poeto de nuna Vjetnamio. Per sia unika nacia karaktero, la poemoj de To Han spegulas plurajn flankojn de la batalema vivo de la vjetnama popolo dum cirkau 25 jaroj. Rezistado kontraŭ la francaj kolonistoj, rezistado kontraŭ la imperiismo, socialisma konstruado en Nord-Vjetnamio kaj Lukto por nacia reunio.

Kun perfekta stilo kaj rica enhavo, la poemoj de To Han jen vibrigas majestan muzikarion por kanti la gloran venkon de la vjetnama popolo en ĝia lukto kontraŭ la agreso & dum la longdaŭra rezistado, jen elspiras fortegan blovon, kvazaŭ trepenetrantan cios koron por denunci la krimajn faritaĵojn de Usono-Dziam en Sud-Vjetnamio, jen flustras dolcajn kaj esperigajn esprimojn por pentri la printempan teron de Nord-Vjetnamio nuna konstruante socialismon.

--La lasta fortreso

Formato 13 19

130 paga

Prezo: US\$0.33

La manoj de la soldatoj nun povas realigi la

LA LASTA FORTERESO

La romano spegulas la hercan batalon de la Vjetnamia Popolarmeo sur la Monteto A.1. --lasta fortreso sur la defend-pozicio de la Franca Ekspedicia Korpuso en Djen Bjen Fu. Okazis tie vera hekatombo. La malamiko, fidante al siaj modernaj armiloj kaj potencaj artilerioj, obstine defendis sian pozicion. Siaflanke, kvankam en la komenco aperis sanceligoj de kelkaj individuoj, ĉiuj niaj batalantoj --oficiroj samkiel soldatoj -- jam montris sian tradician belan heroon, decideme batalis ĝis la lasta homo kaj fine glorie venkis.

Formato 13 19

400 paga

Prezo: US\$ 1.82

Antaŭdankes vin kaj ni esperas al via multan sukceso

En via vivo kaj en via laboro por la servo de Mani-

paco kaj de interpopola amikeco

Por C.K. de V.P.E.A.

Vicprezidento

Vguyen Cong Minh

Handwritten notes and signatures at the bottom of the page.

HEL 事務局 (K.F.)

上記四書註文についてはF記 V.P.E.A. K.F. を参考にしてください

Estimatej kaj karaj gesamideanoj.

Ni havas la honoron sciigi vin ke la Vjetnama
stata Asembleo Eldonejo, kun laboro de Vjetnama
pacdefenda Esperantista Asocio, en sia
eldonplano de 1963 jenajn esperantajn librojn ;
--Elektitaj Poemoj de To-huu. --Senlirejo(romano).
--La lasta fortreso(romano).

La menciita eldonejo nur povas realigi la
presadon de tiuj libroj kiam sukcesas la kvanto de
antaŭmenduloj. Tiel, ni proponas, ke vi akurate
sendu mendoliston al SUNHASABA, 32 Hai Bà Trưng,
Hanoj, Vjet-nam. (kun 1 kopio al V.P.E.A. por kontrolo)

Esperante, ke vi fervore subtenu la laboron
de la vjetnamaj geesperantistoj per reĉmedo efektiv-
igi la eldonadon de la menciitaj libroj, ni sincere
antaŭdankas vin kaj ni deziras al vi multan sukceson
en via vivo kaj en via laboro por la servo de Mond-
paco kaj de interpopola amikeco.

Por C.K. de V.P.E.A.

viceprezidanto

Vguyễn công MÔN

註] 送金の手紙はなるべく航空便(50円)を、×12(VIA PEKING)

400書いておいた方がよい

HEL 事務局 だより

ウチナイ湖畔の巻の Disciplinado が最初の試みとして、まづまづの sukceso E が多偏長では S-ro Hosida を中心とする地元誌小販の samide-anoj の penada によるもので大賣うれしく思います。

さて、今号発刊までに書かれたいろいろの今後の mia esp-movado に関する御意見を別記してみましよう。

① "Informilo de Leontodo" は名前がおかしい。D-ro Yamaga は Informilo de HEL とすべきであるといわれ、S-ro Hosida は "Leontodo" とすべきであるといわれる。まづい EP 刷で Leontodo の名を冠するのには ほかかしの "de" だが今号は心臓強く Leontodo としました。高 会費初加入者がおかげで大層多くなり 経済的ゆとりもできましたので次号あたり 従前通りの LUKSA 版にもどしてみたいと思つています。

② N-ro 27 の presado が悪い — という御意見。どうも筆記者の卵が悪い上、Duplo という雑誌は ガリ版の印刷細字がかげたのです。それに 777 ライフ — が 1930 年製で大方イカれて "いるので" — 御了承下さい。

③ まづ ① 世界エスパーント文会北海道協議会を別記のまゝに発足しました。一度秋川にすると ~~相当~~ 相当の金額でも 月払分債 (20ヶ月位) によれば "pos-monero" だと かにあうわけだ" 例之は "月額 200 円でも 20ヶ月 4000 円になるわけだ" 事務局に寄付予定額と月掛額をお知らせ下さい

毎月雑誌用紙で送金して頂くが、(手数料事務局負担)事務局から折返し
領収書を発送する方針をとることに致します。

④ 次のHEL KONGRESSを7月中旬に開催されたという甚小数の
希望がありました。甚小数(2名)でJapan Kongressに出席希望のsemi
deonojが相当数ありますので、そのprotokoloをいつて東京に出たという
わけです。是非そうしたいと思っております。

⑤ 世界大会までにはエス更北海道案内を作りたい。(S-to Hokaido)
1961年25回大会で"proponi"されたのに26回HEL大会では
このproponoが消えてしまつた。

会費納入有難うございました。事務局に不在で郵便証を発行せず
失礼致しました。どうせ遅くもつたのでから(pardonu!)領収書
郵便料を節約して次のように会計報告に記載致しました。

会計報告 (Jan ~ Mar. 1963)

前回報告分残額 (N-ro 27 参考)		12,658 円
収入	藤田 一郎	500
	山 箕 勇	2,000
	相沢 治雄	300
	アリマヨシハル	200
	高橋 吾一	200
	吉原 正八郎	200
	山崎 久蔵	200
	コトヨシノブ	200
	由良悦子	200
	児王広光	200
	ナガヲアキコ	200

フランスの EKSPOZICIO への協力

フランスの ESP 会が EKSPOZICIO de Internesperi
協力を請うてきている。Gesamidea: helpu recipi-
internacie!

La esperanta sekcio de LAIKA ANIKARO
aranĝos ekspozicion kaj Internesperon

Afable sendu salutkartojn kaj esperantajjn
al la kursvidanto

15-16) Lucien Bourgeois

21 rue Gambetta

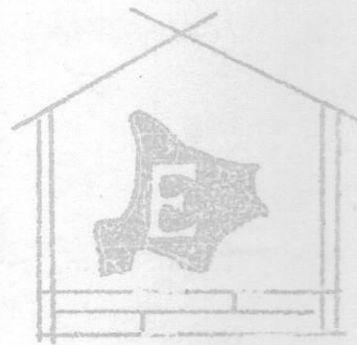
Noyelles-Godault

(P-de-C)

Francujo

手紙の付は 62年12月20日。早めの返事を望む。加藤君
の世界大会に出席した。S-ro Tarō Nishiumi 宛に
返電話に答えている。

原稿募集!!
N-ro 29-a の原稿を送つて下さい。
5月15日原稿/切 5月31日発刊予定



U.K 北海道後援会に協力しよう
